

?s pn=jp 698041
S1 0 PN=JP 698041
?s pn=jp 6098041
S2 1 PN=JP 6098041
?t s2/5/all

2/5/1

DIALOG(R)File 347:JAPIO
(c) 2005 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

04454141 **Image available**
FACSIMILE COMMUNICATION SYSTEM

PUB. NO.: 06-098041 [*JP 6098041* A]
PUBLISHED: April 08, 1994 (19940408)
INVENTOR(s): MIYAZAKI KAZUHIRO
APPLICANT(s): RICOH CO LTD [000674] (A Japanese Company or Corporation), JP
(Japan)
APPL. NO.: 04-244586 [JP 92244586]
FILED: September 14, 1992 (19920914)
INTL CLASS: [5] H04M-011/00; H04M-001/57; H04M-001/65; H04N-001/00
JAPIO CLASS: 44.4 (COMMUNICATION -- Telephone); 44.7 (COMMUNICATION --
Facsimile)
JAPIO KEYWORD: R131 (INFORMATION PROCESSING -- Microcomputers &
Microprocessors)
JOURNAL: Section: E, Section No. 1575, Vol. 18, No. 364, Pg. 135, July
08, 1994 (19940708)

ABSTRACT

PURPOSE: To provide the facsimile communication system which can report a caller and can report the degree of importance for an incoming call as well when the call is incoming.

CONSTITUTION: In the facsimile communication system provided with a G4 facsimile equipment 20 connected to an ISDN line 10 and a key telephone system 40, an exclusive terminal 30 provided with a data base 32 for storing the information of a facsimile transmission source and the telephone set of a call incoming destination corresponding to this information is provided between the facsimile equipment 20 and the main device of the key telephone system 40 and concerning such a facsimile communication system, when the call is incoming to the facsimile equipment 20, the information is displayed at the display part of a key telephone system telephone set concerning the receiving destination stored in the data base 32.

特開平6-98041

(43) 公開日 平成6年(1994)4月8日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M 11/00	3 0 3	8627-5K		
		7190-5K		
		H 7190-5K		
H 0 4 N 1/00	1 0 7 Z	7046-5C		

審査請求 未請求 請求項の数3(全6頁)

(21) 出願番号 特願平4-244586

(22) 出願日 平成4年(1992)9月14日

(71) 出願人 000006747

株式会社リコー

東京都大田区中馬込1丁目3番6号

(72) 発明者 宮崎 一弘

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

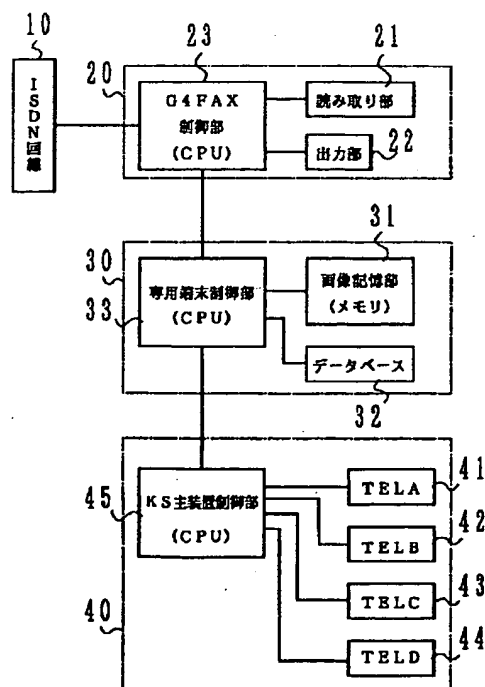
(74) 代理人 弁理士 磯村 雅俊

(54) 【発明の名称】 ファクシミリ通信システム

(57) 【要約】

【目的】 着信があった場合に、その発信者を知るとともに、着信の重要度等を知することも可能なファクシミリ通信システムを提供すること。

【構成】 ISDN回線に接続されたG4ファクシミリ装置と、キーテレホンシステムとを含むファクシミリ通信システムにおいて、前記ファクシミリ装置とキーテレホンシステム主装置間に、ファクシミリ発信元の情報とこれに対応する着信先の電話機を記憶するデータベースを備えた専用端末を設けて、前記ファクシミリ装置への着信があった場合に、前記データベースに記憶されている受信先については、その情報を、前記キーテレホンシステム電話機の表示部に表示する如く構成したことを特徴とするファクシミリ通信システム。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 I S D N回線に接続されたG4ファクシミリ装置と、キーテレホンシステムとを含むファクシミリ通信システムにおいて、前記ファクシミリ装置とキーテレホンシステム主装置間に、ファクシミリ発信元の情報とこれに対応する着信先の電話機を記憶するデータベースを備えた専用端末を設けて、前記ファクシミリ装置への着信があった場合に、前記データベースに記憶されている受信先については、その情報を、前記キーテレホンシステム電話機の表示部に表示する如く構成したことを特徴とするファクシミリ通信システム。

【請求項2】 前記構成に加えて、重要、至急等の特別な送信であることを示す情報を付されたファクシミリの着信があった場合には、前記専用端末でこれを判別して、その情報を、前記キーテレホンシステム電話機の表示部に表示する如く構成したことを特徴とする請求項1記載のファクシミリ通信システム。

【請求項3】 前記構成に加えて、着信先の電話機を留守モードにセットすることにより、当該電話機に対するファクシミリの着信があった場合には、着信情報を前記専用端末の記憶装置に記憶して、その旨を、前記電話機の表示部に表示する如く構成したことを特徴とする請求項1または2記載のファクシミリ通信システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はファクシミリ通信システムに関し、特にI S D N(Integrated Services Digital Network)網の付加サービスである発信者番号通知機能を利用して、キーテレホンシステムの主装置とG4ファクシミリ装置間に専用端末を接続して、発信者のファクシミリ番号によって、任意の表示機付きの端末に、送信側の情報を表示するようにしたファクシミリ通信システムに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、この種のファクシミリ装置としては、例えば、特開平3-229565号公報に開示された装置が知られている。この装置は、I S D Nに接続されるファクシミリ装置において、該装置の設置場所から離れた所定の通知先に対して、画像データの着信を通知する手段を備えたものである。ここで、上述の通知手段は、画像データ受信開始時に着I S D N番号を受信する手段と、該着I S D N番号のそれぞれに対応する所定の通知先の識別番号を予め登録する手段と、上述の所定の通知先の識別番号に自動発呼する手段と、自動発呼した相手先に対して、画像データの受信があったことを回線を通じて伝達する手段から構成されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 上記従来技術においては、画像データの着信があった場合に、任意の電話機に着信を知らせることは可能であるが、この技術では、誰

からの着信かを通知するという点については配慮されてはならず、また、着信の重要度を通知するという点についても考慮されてはなかった。本発明は上記事情に鑑みてなされたもので、その目的とするところは、従来の技術における上述の如き問題を解消し、着信があった場合にはその発信者を通知するとともに、着信の重要度を通知することを可能とするファクシミリ通信システムを提供することにある。

【0004】

10 【課題を解決するための手段】 本発明の上記目的は、I S D N回線に接続されたG4ファクシミリ装置と、キーテレホンシステムとを含むファクシミリ通信システムにおいて、前記ファクシミリ装置とキーテレホンシステム主装置間に、ファクシミリ発信元の情報とこれに対応する着信先の電話機を記憶するデータベースを備えた専用端末を設けて、前記ファクシミリ装置への着信があった場合に、前記データベースに記憶されている受信先については、その情報を、前記キーテレホンシステム電話機の表示部に表示する如く構成したことを特徴とするファクシミリ通信システムによって達成される。

【0005】

【作用】 本発明に係るファクシミリ通信システムにおいては、ファクシミリの着信があった場合に、その発信元情報を基に前記データベースを検索して、着信があったことの通知先を調べ、該当する電話機の表示部にこれを表示する。なお、重要、至急等の特別な送信であることを示す情報を付されたファクシミリの着信があった場合には、前記専用端末がこれを検出して、着信があったことの通知とともに、該当する電話機の表示部にこれを表示する。これらにより、ユーザは適確な情報を得ることが可能になる。

【0006】

【実施例】 以下、本発明の実施例を図面に基づいて詳細に説明する。図1は、本発明の一実施例に係るファクシミリ装置(以下、「装置」ともいう)を含む通信システムのブロック構成図である。図中、10はI S D N回線、20はG4ファクシミリ装置、30は後述する専用端末装置、40はキーテレホンシステム(以下、「KS」という)を示している。上記G4ファクシミリ装置20は、読み取り部21、出力部22および制御部(CPU)23から構成されており、専用端末装置30は画像記憶部(メモリ)31、データベース記憶部32および制御部(CPU)33から構成されている。また、KS40は4台のKS電話機(A~D)41~44と制御部(CPU)45から構成されている。上記データベース記憶部32には、例えば、図3に示す如き情報が予め入力されているものとする。図3に例示する情報は、KS40内の各KS電話機41~44について、着信予定のある相手会社名、電話(FAX)番号、相手側担当者名および着信通知用電話機番号等を記録したものである。なお、ここでは、4

台のKS電話機(A~D)について、1台当り2~3社の着信があるように設定されている。

【0007】つまり、本実施例に係るファクシミリ通信システムは、G4ファクシミリ装置20に接続されている専用端末装置30が持っているデータベースの情報をを用いて、着信があったときに、発信者のFAX番号の照合や、着信を通知すべき電話機の番号の調査等を行い、該当するものがある場合に、着信があったことを該当する電話機に通知するというものである。以下、上述の如く構成された本実施例の動作を、図2に示すフローチャートをも用いて、詳細に説明する。G4ファクシミリ装置20に着信があると、該G4ファクシミリ装置20の制御部23と接続されている専用端末装置30の制御部33を通して専用端末装置30に通知される。専用端末装置30の制御部33は、着信中の発信者番号をチェックするとともに(ステップ51)、データベース記憶部33内の情報をチェックし(ステップ52)、該当する番号が記憶されていない場合(ステップ53)には、その番号をデータベースに追加登録する(ステップ54)。

【0008】また、ステップ53におけるチェックで、該当する番号が見つかった場合には、次に、当該電話機が留守モードにセットされているか否か、すなわち、当該電話機に対応する担当者が在席しているか否かをチェックする(ステップ55)。当該電話機が留守モードにセットされている場合には、専用端末装置30の画像記憶部31に受信FAX情報を記憶する(ステップ60)とともに、当該電話機の表示部に「着信あり」の表示を行う(ステップ61)。なお、上述の電話機に対応する担当者が席に戻り、留守モードを解除した場合には(ステップ62)、上述の画像記憶部31に記憶しておいた受信FAX情報を出力する(ステップ63)。一方、ステップ55におけるチェックで、留守モードにセットされていない場合には、受信FAX情報を出力し(ステップ56)、当該FAX情報が重要FAXであることを示す情報がセットされているか否かをチェックする(ステップ57)。ステップ57におけるチェックで、重要FAX情報である場合には、当該電話機の表示部に「重要FAX着信あり」の表示を行う(ステップ58)。また、重要FAX情報でない場合には、「着信あり」の表示を行う(ステップ59)。

【0009】なお、上述のステップ58、同59における電話機への表示に際しては、前述のデータベースを検索して得た発信元に関する情報を同時に表示する。これにより、在席しているユーザは、着信時に、そのFAXの発信元や重要FAXであるか否か等を、即座に知ることが可能になるという効果が得られる。より具体的に説明すると、以下の通りである。

(1)通常FAX着信(発信者番号がデータベースに登録されている場合): 発信者番号が03-3001-2000であったとする。この番号に対応する発信者はA社なので、A社についての情報をKS主装置に送る。着信通知を行うべ

き電話機は電話機Aなので、電話機Aの表示部にA社の情報とFAX着信があること(例えば、LED点灯)を伝える。

(2)重要FAX着信(発信者番号がデータベースに登録されている場合): 発信者番号が03-3001-2002-1であったとする。ここで、番号最後の「1」は重要FAXであることを示す情報であり、ISDNのサブアドレスを用いて伝送されるものである。この番号に対応する発信者はC社なので、C社についての情報をKS主装置に送る。

【0010】このとき、重要FAXであることを示す情報と一緒に伝送し、電話機Aの表示部に、C社の情報と重要FAX着信があること(例えば、LED点滅)を伝える。

(3)発信者番号がデータベースに登録されていない着信の場合: 着信があり、発信者番号が03-3001-2015であったとする。専用端末装置30で照合を行った結果、該当するものが得られないので、専用端末装置30では、この番号を新規に登録する。なお、発信者に関する情報については、ユーザが適宜、入力するものとする。

(4)留守モードになっている場合: 着信があり、発信者番号が03-3001-2003であったとする。この番号に対応する発信者はD社と判明するが、これに対応する電話機Bが留守モードになっているため、受信FAX情報を専用端末装置30の画像記憶部31に記憶し、電話機Bの表示部にFAX着信があること(例えば、LED点灯)を伝える。

【0011】上記各実施例によれば、着信があった場合に、個々の電話機に、FAX発信者に関する情報が表示されるので、誰から送信されたFAXかが即座に確認できるようになる。また、発信元の会社名や担当者名から、本人宛のFAXかどうかの判断を行うことも可能になる。また、表示内容に、重要FAXであることを示す情報を含ませることにより、着信時点でそれがわかるので、受信者の対応が早くできるようになる。更に、不在時には、電話機を留守モードにセットしておくことにより、本人宛に送信されてきたFAXをメモリに記憶しておいて、その旨を表示しておき、本人が席に戻って留守モードを解除することにより、記憶しておいたFAX情報を出力するので、不在時の着信通知をも確実に行うことができる。なお、上記実施例は本発明の一例を示したものであり、本発明はこれに限定されるものではなく、他の応用も可能であることは言うまでもない。例えば、重要FAX情報の代わりに、至急FAXの情報を持たせること等も可能である。

【0012】

【発明の効果】以上、詳細に説明した如く、本発明によれば、着信があった場合にはその発信者を通知するとともに、着信の重要度を通知することをも可能とするファクシミリ通信システムを実現できるという顕著な効果を

奏するものである。

【0013】

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例に係るファクシミリ装置を含む通信システムのブロック構成図である。

【図2】実施例の動作を説明するフローチャートである。

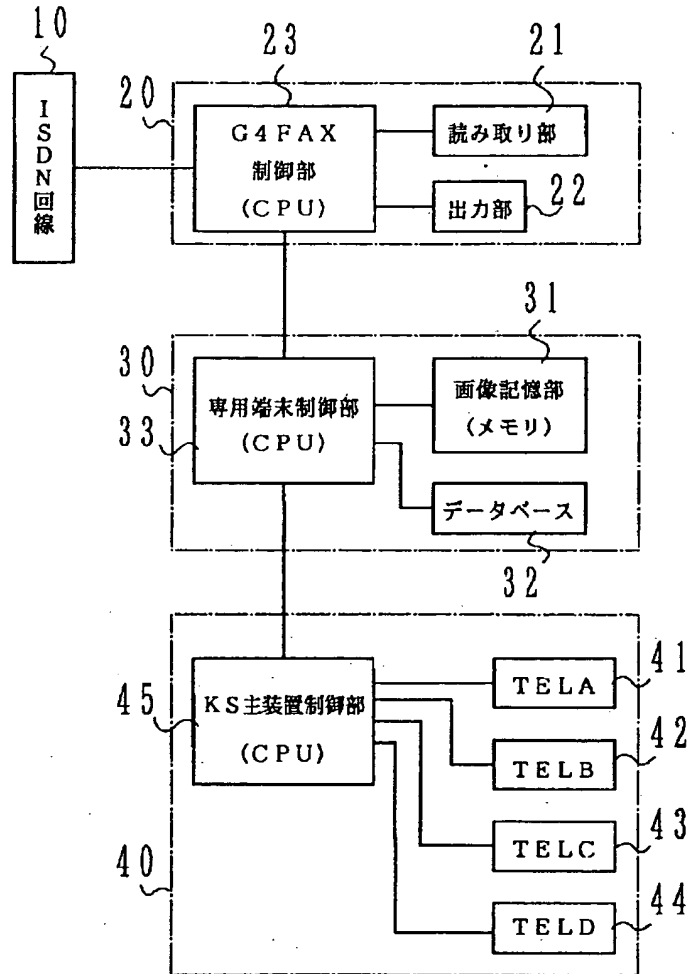
【図3】実施例に係るデータベース記憶部32中に予め

入力されている情報を例示する図である。

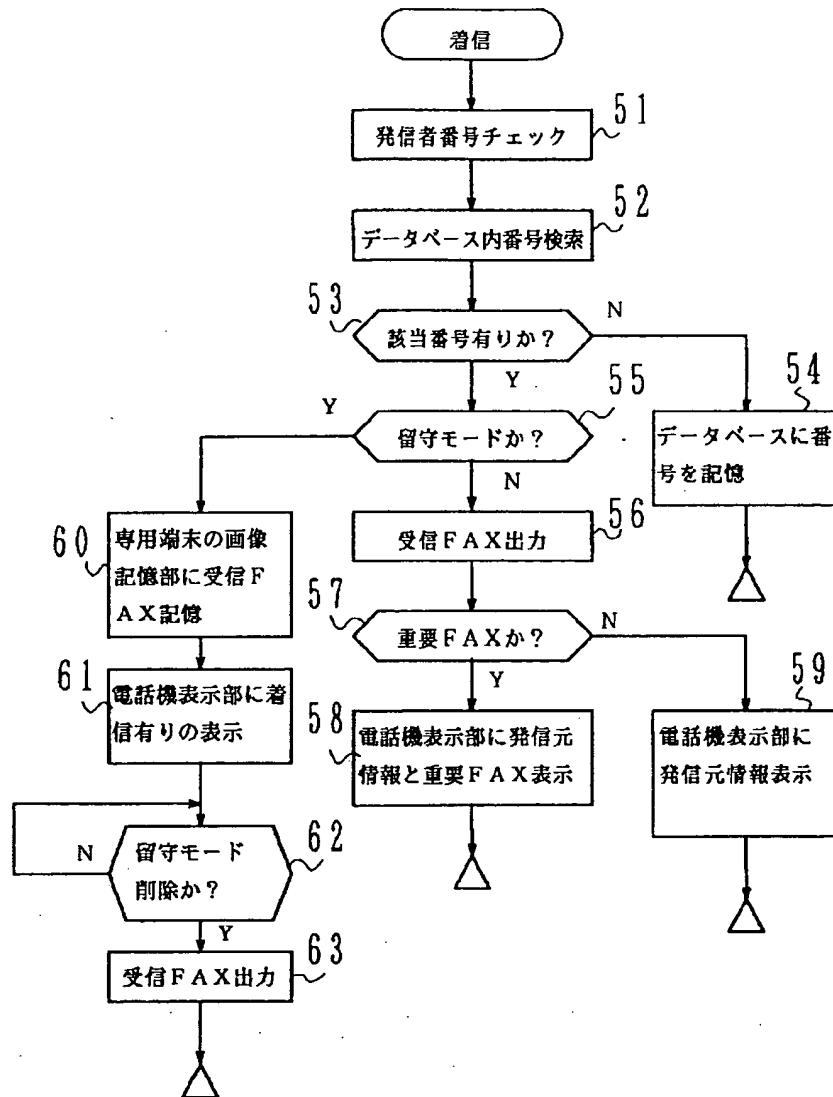
【符号の説明】

10：ISDN回線、20：G4ファクシミリ装置、21：読み取り部、22：出力部、23：制御部、30：専用端末装置、31：画像記憶部(メモリ)、32：データベース記憶部、33：制御部(CPU)、40：キーテレホンシステム、41～44：KS電話機(A～D)、45：制御部(CPU)。

【図1】



【図2】



【図3】

専用端末内データベース情報

会社名	番号	担当者名	登録電話機	メモ
会社A	03-3001-2000	a	A	
会社B	03-3001-2001	b	A	
会社C	03-3001-2002	c	A	
会社D	03-3001-2003	d	B	
会社E	03-3001-2004	e	B	
会社F	03-3001-2005	f	B	
会社G	03-3001-2006	g	C	
会社H	03-3001-2007	h	C	
会社I	03-3001-2008	i	D	
会社J	03-3001-2009	j	D	
会社K	03-3001-2010	k	D	